



ミッショント携えて。



The Stories of Our MISSION.

MISSION を携えて

未来を切り拓こう。



人生は、与えられたミッションを知る時、動き始める。

Life truly begins when you discover the mission meant for you.

信仰を持って生きようとする人、自分の人生に真剣に向き合うすべての人が、
答えなければならない問い合わせが、聖書に書かれています。

「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」使徒行伝 22:10

“Lord, what shall I do?” Acts 22:10

この問い合わせに対する答えが、あなたの「ミッション」です。

三育学院カレッジは、あなたとミッションをつなぎ、世界に送り出す学校です。

さあ、与えられたミッションと出会う旅へ。

CONTENTS

- 03 在校生座談会
- 07 ミッションに合わせカスタマイズする学び
- 09 ミッションフィールドは世界
- 11 キャンパスで培う伝道スピリット
- 13 世界がキャンパス
- 15 OB / OG's Voice
- 16 2つの専攻 / カリキュラム
- 17 ミッション探しの旅を導く神学の学び
- 18 学納金 / 奨学金
- 19 三育学院の歴史
- 20 校長メッセージ
- 21 ディプロマ・ポリシー
- 22 アドミッション・ポリシー / 入試情報





増田 皓生さん
MASUDA Koki
神学専攻 2 年生

津嘉山 美星南さん
TSUKAYAMA Mihona
キリスト教学専攻 2 年生

下村 恵愛さん
SHIMOMURA Ema
キリスト教学専攻 2 年生

一人のクリスチヤン、信仰者として

入学前のイメージ

—まず初めに、入学する前の神学科のイメージを教えていただけますか。

下村：私は神学科はすごく「硬い感じ」「聖書の釈義をずっとして」みたいなイメージで、研究をずっとして、研究の環境を整えてます、という場所だと思っていました。なので、私には向いてないな……と感じて、実は入学する前日まで「やっぱり向いてないんじゃないかな……」とずっと悩んでいました。

津嘉山：私は神学科は入りやすくて卒業も簡単なイメージがありました。それは私が高校の時に実際に牧師先生がそう話していたのを聞いたことがあったからです。でもその先生に預言の話を聞いて、カレッジはクリスチヤンとして学ぶべきものがある場所だと思って入

学しました。実際にどんな内容のことを勉強するのかは、入学するまで分からなかったです。

増田：僕は神学科の存在 자체をしっかりと認識したのが入学する直前の 3 月だった、ということもあり、特に期待もイメージも持っていました。ただ、聖書について学べる、信仰が高められる、ただぼんやりと自分にとって信仰を強められる場所という感じでしたね。

入学後のギャップ

—そのようなイメージから入学して、その後のギャップ、発見などはどうですか？

下村：私は何となく信仰と神学って分けて考えていたようなところがあり、神学って本当に難しいと思っていたんですが、最近、信仰と

神学が重なって一緒だと感じるようになります。神学科の礼拝や授業のなかでも、釈義とか知識だけじゃなくて「信仰者としてどう生きていくか」「イエスさまとどう関わりを深めたらいいか」と信仰と神学が一致した、一緒だと感じられるようになったのが一番変わったところだと思います。

—なるほど……ギャップというか、切り離してたものが実は一緒だったというサプライズという感じですね。津嘉山さんどうですか？

津嘉山：神学科はクリスチヤンとして成長できる場所だと思います。高校まではすごく神様のことを信じてましたが、実は愛って何？ 罪って何？ 救いって……？ という感じでしたが、神学科入学後はそれを知識として深められ、期待してたものが得られた、学びたいと思ってたことが学べている、予想以上のものが得られてるという満足感ですね。

—その予想以上の部分をもう少し教えてくれますか。

津嘉山：信仰の土台、キリスト教の基礎の聖書の読み方を学んでいる、というのが予想内の部分で、予想以上は、自分の信仰がこんなにも弱いのか、と気づいて、助け合える仲間が近くにいて成長できている。高校までは聖書を読むにしても限られた時間でしたが、今は聖書をメインに学び、自分の信仰や伝道するってことに目が向くようになり、いままでぼんやりしていたものがはっきりしたような気がします。

増田：これまで学問の一つとして神学があり、聖書は好きな人が学んでいるという認識でしたが、カレッジに入り自分で学んでいく内に、最も喜びの大きな学問であり、聖書が一つの書物である以上にイエス様の人物像を表すものであると気づきました。イエス様を知りたいと思えば思うほど学びが深まっていって、

それが繋がっていくことを実感しています。

カレッジの魅力

—では、皆さんのその経験を踏まえて神学科の魅力ってどんなところでしょう。

下村：私が魅力と感じるのはこの学校の靈的な環境で、私自身ここにいる間にイエス様の姿がはっきり見えるようになってきました。ぼんやりとしか考えられなかった時には持てなかった自信、確信が持てるようになったと感じます。聖書を学んで神様のために働くことを考えることで、「使命が与えられている」「何のために生きているのか」ということを知り、自信が持てるようになった感じです。人のために生きると考えたら生きる活力が湧いてくるように思います。

津嘉山：高校生の時は、単純に高校を卒業して大学に行って、いい会社に入って家庭を持ち……。そういう夢、将来像を描いてると思いますが、それには何か土台になるものが必要だと思います。そういうものがないと、病んでしまったり生きる意味が分からない……となってしまったり。神学科はその土台を確立できる場所だと思います。

増田：僕は、ここは答え合わせの場所だって思います。抽象的な言い方をしてますが、いろんなことに対して、例えば自分が何で生きるんだろう、と考えたり様々な疑問に対する答えを見つけ、その価値観で生きようと思えるような。すべての面において神様が引き上げてくれるような、本当にすごくいい場所だと思います。

—ではもう少し具体的に、神学科のクラスで特にオススメみたいのはありますか？

下村：「アドベンチストの信仰」でしょうか。このクラスで「聖書はこうやって勉強するんだ」と光がさして、聖書の学び方が分かった、

聖書って面白いものなんだ。と思いました。そのうえで、釈義のクラスではもっと具体的にどうやって学んだらいいか、道具を教えてもらう、例えば原語で読むための単語の調べ方や、時代背景など、学び方のための道具みたいなイメージでした。そういう聖書の学び方ができると、日常生活に当てはめができるようになって、悩んだ時には聖書がなんて言ってるんだろう……というのを考えることが多くなったと思います。

増田：僕も「アドベンチストの信仰」では聖書が一つに繋がっている、矛盾がない、妥協がないっていうことに衝撃的に気づいて。それは自分の弱さを知ること、自分を見つめることでもあり、聖書を知れば知るほど、自分が変わっていく気づきを教えられました。あと、「宣教」の授業では、預言を歴史順に整理して、誰に・いつ伝えられたのかを説明していく時に、聖書が一つにつながっていることを実感しすごく深い学びだったなと思いました。

津嘉山：いくつかありますが、一つは「キリスト教概論」。これは、看護学科の学生と一緒に授業ですが「キリストはどういう人」「愛とは」など分かりやすく教えてもらい、すごく納得。「こうやって伝えればいいんだ」「まさにこれが学びたかった」という感じでした。そして、それを自分に当てはめて応用することまで教えてもらったので、とてもためになりました。また、私は預言について学びたいというのが入学動機でしたが、ダニエル書、黙示録の学びはどれも有意義でした。黙示録で預言解釈のヒントを得て、ダニエル書では伝え方を学び、それをアウトプットできてとても良かったです。

学びの成果

ーでは、クラス以外で神学科生として良かった点はありますか。

増田：看護学科生と一緒に「キリスト教音楽」などで、神学生としてリーダーシップを取ることを求められ、それが能動的に動くために広い視野で考えながら人間関係を捉えるのは、自分にとってすごいチャレンジでした。でもそのお陰で CMC（宗教教育活動）や日常生活でも根本的な人間関係、人の接し方を考えるいいきっかけになりました。

津嘉山：寮では看護学部の学生と一緒に、宗教背景のない人たちと一緒にすることで、勉強で得たものを実践する場がたくさんあり、良い学びだと感じます。また、寮ではさまざまな役割を担うことが多く、高校時代の寮生活とは違った責任感を求められます。その中で学べたことはとても大きく、自分にとって貴重な経験になっています。大学での寮生活は、社会にでる一步前の『ミニ社会』のようなもので、これらの学び、経験がこれから活かされると思います。

下村：私が神学科にきて良かったと思うのは、違う価値観に触れられたことです。今までの高校生活では、ずっと周りも同じ価値観の中で過ごしてましたけど、この

キャンパスで全く違う価値観だけどすごくいい子たちと過ごす中で、神学科生としてではなく「信仰者としてどう生きたらいいんだろう」と考えさせられました。寮の中では悩みながらも色々な気づきがあり、自分は単に「いい人」であれば良いではなく、神様に従う人であり、信仰者としての振る舞いが先にたつ人でありたいと思いました。

増田：違う価値観というと、僕も色々な価値観の仲間たちと寮で生活していて「愛し方」を改めて知った、というのがすごく大きな経験ですね。価値観が違うというのは、神様を基本にしてきたか、自分は単に「いい人」であれば良いのではなく、寮生が全員集まっている時、この人たち全員と一緒に天国に行きたい、と心から思えるのがすごい祝福だと感じます。イエス様に倣う、神様に倣う、そのような生き方をする。この人たちをどう愛するか、ということを知ることができて、すごく良かったと思っています。

高校生へメッセージ

ーありがとうございました。では、最後に、高校生や神学科について考えている人たちにメッセージを頂けますか。

津嘉山：私は三育の教員になりたくて、まずその前に色々学びたいと考え神学科に入りました。これまで学んできて思うのは、何をするにも何を目指すにも土台がしっかりとしないといけないということ。道は一つではなく自分の考えた道でなくても、幸運な道を神様が用意してくれる、神様の用意してくれる道ならどんな道でもいい、と思



れるようになりました。それが牧師なのか、三育の教師なのか、教師以外なのか……、それは分からぬですが神様が土台を備えてくれる。その土台をしっかりと築けるカレッジはすごいオススメです。

増田：神学科は神様が大好きで信仰が強い人が入るという印象があると思いますが、僕はそういうことが何もなく飛び込んできたんです。本当に飛び込んで良かったと思います。重篤な患者を医者が一番近くにおくみたいに、イエス様は弱い人をそばにおきたい、と考えていると思うので、何も知らないからこそ、弱いからこそ、神学科に来て欲しいと思います。

下村：人は一人では生きていけないからこそ、支えや目印、生きる目的が必要ですよね。神学科では、その目的を見つけることができると思います。「それは難しい」と感じていても、イエス様が見つけやすくしてくださり、生きる希望を与えてくださいます。イエス様と出会いたいと思うなら、イエス様のほうから出会ってくださいます。是非、そういう場所、神学科で学んで欲しいです。

ーありがとうございました。皆さんのお話をうかがって、教員としてとても励されました。引き続き、皆さんのミッション探しの旅を、祈りつつ全力でサポートしたいと思います。





本間 匠さん

HOMMA Takumi

2024/03 : キリスト教学専攻 卒業

進路と信仰がつながる場所

—三育学院カレッジに入学したきっかけは何でしたか？

本間：小学生の頃から三育の教員になりたいという夢を持っていて、進路として教職課程のある大学も視野に入れしていました。しかし、将来について考える中で「三育で教えるためには、その土台となる聖書をしっかり学び、自分の信仰も確かなものにしたい」という思いが与えられました。そこで、カレッジで2年間学んだ後、通信制大学に編入し、教員免許取得を目指すという道筋を描くことになりました。

—実際に入学してみて、どのような学びや体験がありましたか？

本間：実際に入学してみると、期待以上の学びと経験がありました。旧約・新約概論をはじめとする基本的な聖書知識に加えて、研修中の現場の先生方と共に学ぶ機会もあり、1年次後期から教育行政学、2年次前期には教育原理を履修しました。教育と信仰がどのように結びつくかを深く学べたことは、自分の進路希望を確信に変える大きな助けとなりました。

—教職に関して実践的な学びもありましたか？

本間：2年次の夏には中等教育現場での3週間の機関実習を経験しました。授業を担当したり、寮監として宿直に入ったりする中で、教職のリアルな姿を間近で見ることができました。先生方の働きやリズムを肌で感じられたことで、卒業後に実際の仕事に入る際にも現場にスムーズに馴染めたと実感しています。

—現在の働きや学びについて教えていただけますか？

本間：現在は三育の中等教育学校で寮監補佐として勤務しながら、通信制大学に編入して教職課程の学びをしています。今年度中に教育実習を終える予定で、結果的に通常の大学と同じ4年間で教員免許取得を見込めることとなりました。「信仰と学びの基礎を築いたうえで、教育の道に進む」という計画が実現しつつあります。

—カレッジでの学びは、自分のニーズに合うものでしたか？

本間：カレッジの特長の一つは、学生の関心や将来のビジョンに応じて学びをカスタマイズできる点です。私自身も通常のカリキュラムに加え、将来を見据えて教育系の専門科目を早めに履修しました。こうした柔軟な学びの設計は、学生一人ひとりの成長を後押ししてくれます。

—これからカレッジを目指す高校生へ、伝えたいことはありますか？

本間：カレッジは、「信仰の基礎を築く場所」であると同時に、「進路と信仰がつながる場所」でもあると感じています。高校生の皆さんの中には「牧師になる人が行く学校」というイメージを持っている方もいるかもしれません、信仰の強さや知識の有無にかかわらず、クリスチヤンとして生きていくための土台をしっかりと築きたい人にとって、ここでの学びには大きな価値があると思います。自分のミッションが見つかる場所、深まる場所、それが三育学院カレッジだと思います。

■ 機関実習に参加しました



3年次に福祉施設での機関実習を行いました。職員や利用者の皆様と交流する中で、福祉に対するイメージが大きく変えられる体験となりました。何より、福音をさまざまな形で届ける、ミッションの方法について考える貴重な機会でした。

4年次には、食品関連の機関実習を予定しています。

山本 怜矢（神学専攻 4年生）

—与えられたミッションを意識することで、留学先や宣教地としての世界とつながる。



花田 湧貴さん

HANADA Yuki

2025/03 : キリスト教学専攻 卒業
2025/08 : 米国 Andrews 大学 留学予定

神様が示してくださった使命

—三育学院カレッジへの志望動機、特に留学を意識された点について教えてください。

花田：私は牧師家庭で育ち、将来は伝道者として生きていきたいという思いが漠然とありました。牧師になりたかったというよりは、聖書中の人物や人生と自分を照らし合わせ、漠然と使命感を感じていたように思います。小学校から英語の授業や中学での海外研修などから英語や海外に興味が湧き、牧師を目指しつつアンドリュース大学への留学を視野に、提携している三育学院神学科を選びました。一入学する前から、留学を意識されていたんですね。

花田：アンドリュース大学は、アドベンチストの教育機関でも規模が大きく、質の高い、多様なプログラムがあると感じていたので、アンドリュースで学びたい、そのために提携している三育学院カレッジ神学科が進路選択の決め手になりました。

—カレッジでの2年間、留学に向けて具体的にどんな準備をされましたか？

花田：英語学習に多くの時間を費やしました。特にマンツーマン指導で TOEFL 対策や英会話の指導をしていただいたのが大きかったです。大変でしたが、留学のために必死で勉強しました。でも、空き時間など英語に集中していたので、神学の課題は最低限こなしていました、っていう面もありましたね（笑）。

—留学前に三育学院で学べて良かったと感じる点は何ですか？

花田：まず、アンドリュース大学と同じ神学を日本語で基礎から学べたことですね。特に神学の概念やギリシャ語など、専門的な内容を母国語で理解できたのは、留学へのハードルをかなり下げてくれたと感じています。また、

キャンパスミニストリーや様々な奉仕を通して伝道の実践経験を積めたこと、先生方が「自分のミッション」について深く考えるよう、繰り返し語ってくださったので、自分自身と向き合う時間を持てたこともとても良かったと思います。

—キャンパスミニストリーというのは？

花田：学校の宗教教育活動を担うことはもちろんですが、寮などでノンクリスチヤンの友人と聖書研究をしました。この経験を通して「自分がしっかり準備しなければ」という思いが強くなり、聖書の学びを深め、伝える練習を一生懸命しました。一般の大学に行っていたらかなり難しかったと思いますが、自然と伝道のハードルが下がったように思います。

—「自分のミッション」について深く考えるようになったきっかけは何でしたか？また、どのように変化しましたか？

花田：入学当初は牧師になることがミッションだと思っていましたが、学びを通して「これが本当に神様からのミッションだろうか？」と迷う時期がありました。一度別の道を考えた時、逆に「牧師として召されている」という確信を神様からはっきりと与えられました。以前の「自分がこうなりたい」から「神様がこれを使命だと示してくださっている」という確信に変わり、勇気をもらいました。求めれば必ず答えてくださる、と実感しました。

—これからの進路と、今感じているミッションを教えてください。

花田：今年の8月からアンドリュース大学の神学部に進学し、牧師としての伝道者の働きを目指します。一番のミッションは、神様が用いてくださる場所で、私にしかできない形でイエス様を紹介することです。大変なことが多いと思いますが、このミッションを胸に、これからも進んでいきます。

—キャンパスにいるときから始まる「福音を伝える経験」が、伝道者として生きる土台になる。

稻田 歩さん
INADA Ayumu

2024/03：キリスト教学専攻 卒業



学びを実践にうつせる強み

—三育学院カレッジでは、どのような伝道活動に取り組んでいましたか？

稻田：男子寮の金曜夜の集会が特に印象に残っています。食事を共にしながら色々なことを語り合うという集まりを企画して、少しずつつながりが生まれていく中で、密な関係の中で信仰の話ができるようになりました。伝道について学んだことをすぐに実践にうつせるというカレッジの環境の強みを感じました。

—高校での活動と比べて違いはありましたか？

稻田：三育高校は既に聖書のベースがある人たちが対象でしたが、カレッジではキリスト教の背景のない人たちに信仰を語るというのがチャレンジでした。最初は何を話したら良いかわからず戸惑うこともありましたが、色々と工夫していく中で、相手の背景や必要に目を向けながら語ることの大切さを学びました。

—神学科での実践的な学びはどのようなものでしたか？

稻田：海外から派遣された開拓伝道のエキスパートのセミナーを1年間受講し、コーチングを受ける実習がありました。それまで持っていた「教会」や「伝道」というものの概念が刷新されるようなインパクトがありました。卒業後に宣教師として活動する中で、その頃のノートを読み返すこともありました。

—宣教師として台湾に行くことになったきっかけは？

稻田：在学中に声をかけていただいたことが始まりです。祖父もかつて台湾で宣教師として働いていたこともあります。自分自身も使命を感じて、参加を決心しました。在学中の伝道活動が楽しく、雰囲気が良かったので、違う場所でも実践したいという思いもありました。

—台湾での伝道経験を教えてください

稻田：PCM (Public Campus Ministry) という一般的の大学のキャンパスで伝道を行うプログラムの宣教師として活動しました。今では中国語で聖書研究が出来るようになりましたが、始めはやはり言葉の壁もあり、何もできず无力感を感じました。活動する中で、神様に心を開いていく青年たちと関わっていくうちに、働くのは自分ではなく神様なのだとということを体感しました。

—台湾の青年たちについてどのように感じましたか？

稻田：社会が激しく変化し、情報があふれる環境で、生きる目的を見出すのは簡単なことではなく、孤独や不安を抱える若者が多くいて、これは日本も同じです。しかし、私には確信があります。それは、「イエス様を見つめて生きることこそが本当の自由だ」ということ、そして今こそ聖書の光が若者の心に届く時だということです。

—今後はどのような働きを考えていますか？

稻田：東京でホームチャーチという形の伝道を始めようと準備中です。台湾での体験や、カレッジでの学びを活かして、新しい教会のかたち、伝道のかたちを考えていきたいと思っています。

—高校生にメッセージをお願いします。

稻田：「なぜ神様を信じているのか」と問われたとき、自分の言葉でしっかりと答えられるようになります。それは、人生における揺るがない軸になります。振り返ってみると、神学科での学びは、その答えを深く考えるために欠かせない時間でした。私たち一人ひとりに、神様は確かにミッションを与えてくださっています。その確信を持って、ともに福音を伝えていきましょう。

米国アドベンチスト大学との協定

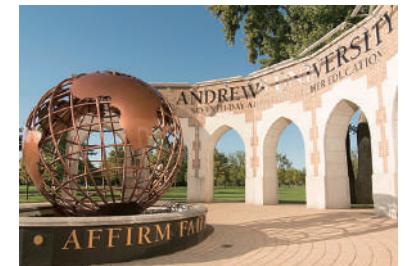
現在、米国のアンドリュース大学（ミシガン州）とラシエラ大学（カリフォルニア州）の2大学と協定を結んでいます。この協定により、本校で2年間学んだ後に各大学へ編入学した場合、単位互換、奨学金を受けることができます。いずれもTOEFLなどの英語の試験で大学が決める基準を満たす必要があります。

※大学の特色、学部の詳細は、各大学のホームページをご覧ください。

1874年Battle Creek Collegeとして設立されたセブンスデー・アドベンチスト教会の旗艦大学。神学院（セミナリー）を併設。

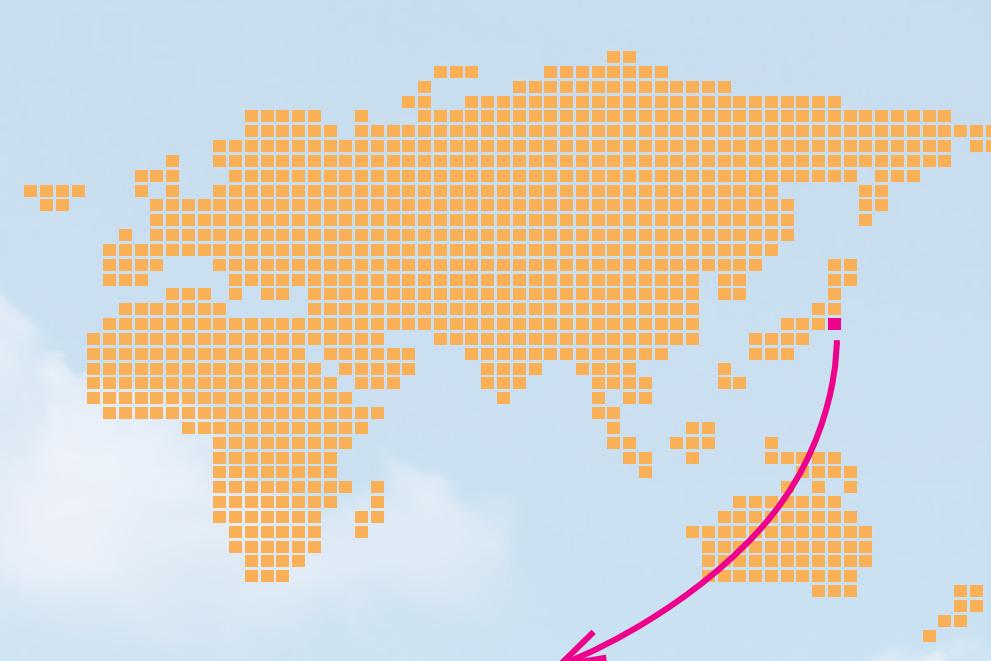
留学生が多く、U.S. News and World Reportの「キャンパス内の多様性」ランキングでは、スタンフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学と並んで全米トップのスコア。

主な専攻	Accounting, Animal Science, Architecture, Art, Aviation, Biochemistry, Biology, Business Administration, Computer Science, Cybersecurity, Data Science, Engineering, English, Finance, Graphic Design, Mathematics, Medical Laboratory Science, Music Education, Nursing, Psychology, Religion, Theology 他
授業料	約35,000ドル 減免制度による支給額：14,000ドル／年



Andrews University

<https://www.andrews.edu/>



Japan Missionary College
<https://saniku.ac.jp/theology/>



1922年La Sierra Academyとして設立される。理系学生の内8割が近郊のLoma Linda Universityを始めとする医療・健康福祉系教育機関へ進学する。また、地域貢献プログラム（Service-Learning Program）や社会起業プログラムは米国でも高く評価され、連邦公社Corporation for National and Community ServiceやEnactusから表彰を受けている。

主な専攻	Archaeology, Art, Biomedical Science, Business, Chemistry, Computer Science, Criminal Justice, Digital Media, English, Clinical Health Studies, Public Health, Nutrition, History, Marketing, Music, Neuroscience, Philosophy, Psychology 他
授業料	約38,000ドル 減免制度による支給額：50%／年



La Sierra UNIVERSITY

<https://lasierra.edu/>



本田 直希さん
HONDA Naoki
2022/03 : 神学専攻 卒業

現在、米国ミシガン州のアンドリュース大学で組織経営を学んでいます。

三育学院で神学を学んだ時、自身の信仰を見つめ直し、神様が与えてくださった福音を周囲とどう共有するかを真剣に模索する機会がありました。その結果、教育の場で多くの人々と福音を共に味わう働きをしたいと願うようになり、今の学びにつながっています。

将来は、この経験を生かして日本の三育の学校に貢献したいと考えています。



安藤 薫織さん
ANDO Kaori
2025/03 : 神学専攻 卒業

三育学院カレッジでは、学年を超えて共に学ぶ機会が多く、釈義の授業でギリシャ語・ヘブライ語の基礎に触れるなど、深い学びをすることができました。

少人数制のため、一人ひとりの理解度や興味に合わせた指導や研究機会が豊富です。私は福祉や病院でのチャップレン実習を通じて貴重な経験を得ることができ、先生方も進路や学習面で親身にサポートしてくださいました。

三育で培った「人と神を愛する姿勢」と「神様と共に問題に向き合う力」を糧に、愛し愛される人として成長していきたいです。



西村 翔さん
NISHIMURA Sho
2020/03 : 神学専攻 卒業

三育学院カレッジでの4年間は、牧師としての働きに備えるうえで非常に有意義な時間でした。

ギリシャ語の学びは説教準備の土台となり、授業ノートが聖書研究の参考資料になることもあります。授業外では近隣教会で礼拝奉仕に携わり、学内伝道も経験することで伝道者としてのスキルを磨くことができました。こうした学びの機会に恵まれたことを心から感謝しています。

現在は4年間の牧師経験を経て、アンドリュース大学大学院で学んでいます。

2 Majors 2つの専攻



神学専攻
4年
コース



キリスト教学
専攻
2年
コース

牧師・伝道師を目指す方をはじめとした、アドベンチスト信仰を理論と実践を通して学びたい方のためのコースです。4年間を通して神学4分野（聖書神学・組織神学・歴史神学・実践神学）を網羅するアプローチにより、アドベンチスト神学の基礎を身につけ、様々な実習を通して伝道者としての実践力を養います。

コースの修了者は、アドベンチストの認証評価機構（Adventist Accrediting Association）より大学課程修了者に与えられる BA (Bachelor of Arts 文系学士) が授与されます。また、文部科学大臣告示による称号「高度専門士（キリスト教教養専門課程）」が与えられ、卒業後は国内外の大学院への進学も可能になります。

※「高度専門士」の称号は、日本国内においては大学卒業の学士と同等の証明となり、大学院への進学が可能となります。

キリスト教学専攻では、アドベンチスト神学の基礎を学び、信仰の土台を形成しつつ、関連機関での実習を経て、将来様々な分野で活躍するための準備することができます。卒業生は、アドベンチストの認証評価機構より AA(Associate of Arts 文系準学士) として認定されます。

また、短期大学卒業者と同等以上の学力のある者として、文部科学大臣告示による称号である「専門士（キリスト教教養専門課程）」が付与され、大学の編入学の資格を得ることができます。課程修了後、国内大学や海外のアドベンチスト大学への編入、系列機関への就職などの選択肢があります。

特に米国のアンドリュース大学とラシェラ大学とは協定を結んでおり、単位互換や授業料の減免などの制度があります。

Curriculum カリキュラム

三育学院カレッジでは、学生がクリスチャンとしてのアイデンティティを確立し、神から与えられたミッションを自覚することを目指しています。

そして、聖書の預言に示された三天使のメッセージ（ヨハネの黙示録14章）を指針として、教会と社会に貢献できる人物として成長することを期待しています。

その目的を達成するため、本校で提供されるすべての科目は、靈・知・体の3つの資質を養成するように構成されています。

神学専攻【4年コース】

キリスト教学専攻【2年コース】

1年次 信仰と学問の出会い 基礎教養科目	2年次 聖書と神学の世界へ 神学基礎科目	3年次 実践を通しての学び 神学科目と実習	4年次 福音を伝える者として 卒業研究
----------------------------	----------------------------	-----------------------------	---------------------------

正純先生の授業紹介

コミュニケーション論

このクラスでは、キリスト教の宣教と牧会におけるコミュニケーションの理論と実践を学びます。聖書学、宣教學、社会科学の視点からコミュニケーションを多角的に理解し、言葉や関係性を通してどのように福音を伝え、人々に寄り添うかを考え、メディアの活用方法やコミュニケーションにおける危機管理などにも注目します。福音を的確に伝えるための基本的な理論と、実際の宣教・牧会に役立つ実践的なスキルの習得を目指すクラスです。



校長 / 学科長 / 教授
杉 正純
SUGI Masazumi
学 位：教育学博士
専門分野：実践神学
担当科目：海外宣教実習
コミュニケーション論
牧会社会学 など

悟先生の授業紹介

新約聖書

福音書からヘブライ書までの背景や文脈を学びながら、聖書のメッセージを深く読み取る力を養います。聖霊の助けを求めつつ、み言葉に表された神様の御心を受け取り、自らの信仰や日々の生活に結びつける方法を実践的に探っていきます。

ヨハネの黙示録

アドベンチスト教会の使命の土台となる黙示録の預言を学ぶクラスです。難解と思われるがちなこの書に示されたイエス様の愛と、終末時代を生きる私たちに託された福音のメッセージと一緒に見出していきます。



助教
山地 悟
YAMAJI Satoru
学 位：神学修士
専門分野：新約聖書
担当科目：ギリシャ語
ヨハネの黙示録
新約聖書 など

ミッショントリニティ探しの旅を導く神学の学び！

※ 正規生にならなくても神学が学べる「科目履修制度」「信徒リーダー養成コース（公開講座）」なども用意されています。



学科長補佐 / 准教授
長谷川 徹
HASEGAWA Toru
学 位：神学修士
専門分野：組織神学
担当科目：神学諸論
キリスト教倫理学
アドベンチストの信仰など



助手
田渕 茜
TABUCHI Fuki
学 位：作業療法修士
専門分野：健康教育・福祉
担当科目：スポーツ科学
ファシリテーション
機関実習 など

徹先生の授業紹介

アドベンチストの信仰 I・II

私たちは聖書のメッセージを誰かに伝えようとする時「救い」「信仰」「罪」などの基本概念の理解の重要性に気づかされます。一つひとつの教理は他の教理と有機的につながっているので、全体を体系立てて学ぶ必要があります。アドベンチストの信仰 I・II では、神・救い・教会・終末などの教理項目を、アドベンチストの神学体系から学びます。アドベンチスト神学の緻密さ・奥深さに驚き、信仰者として、福音を伝える者として成長することのできるクラスです。

茜先生の授業紹介

機関実習

セブンスデー・アドベンチスト教会には、福祉や教育など様々な事業を担う関連機関が全国・海外にあります。そのネットワークを活かした学びをすることができるのが機関実習です。各機関の現場で実際の働きを体験しながら、自分の適性や課題を発見し、社会人としての心構えを身につけます。使命感を持つ働き手を求めている機関と、証し人として生きたいと願う学生をつなぐ機会もあります。ミッションを生きる社会人となる第一歩が機関実習です。

Tuition Fees / Scholarships 学納金 / 奨学金

費用	入学手續時納入金	後期納入金	初年度合計納付金	2年目前期納入金
入学金	150,000 円	—	150,000 円	—
授業料	200,000 円	200,000 円	400,000 円	200,000 円
施設設備費	50,000 円	50,000 円	100,000 円	50,000 円
教育充実費	50,000 円	50,000 円	100,000 円	50,000 円
入寮費	50,000 円	—	50,000 円	—
寮費	306,000 円	306,000 円	612,000 円	306,000 円
生活費込み合計	806,000 円	606,000 円	1,412,000 円	606,000 円

※寮費は電気料金・ガス料金・水道料金・インターネット料金・1日3食の食費込みの料金となります。

※通学生の方は、入寮費及び寮費はかかりません。

《参考（学費・生活費の平均額）》

学費（神・仏系私立大学）：1,144,095 円（出典：文部科学省 私立大学等の令和5年度入学者に係る学生納付金等調査）

生活費：677,400 円（アパート居住 1,072,000 円）（出典：日本学生支援機構 令和4年度学生生活調査結果）

神学科奨学金（若干名）《条件付き給付型》

資格	学業成績、人物ともに優秀で学資の支弁の困難な者
支給額	第一種：年間 21万円～50万円（3～4年次） 第二種：年間 10万円～20万円（1～2年次）
備考	（第一種奨学金受給者のみ） 卒業後直ちにセブンスデー・アドベンチスト教団・機関に支給年数に対し2倍の期間奉職する者には返済義務なし。

神学科特別奨学金：神学専攻対象（若干名）《条件付き給付型》

資格	学業成績、人物ともに優秀で学資の支弁の困難な者 神学専攻の学生でセブンスデー・アドベンチスト教団の牧師となる意思が明確な者
支給額	年額 20万円～40万円
備考	卒業後直ちにセブンスデー・アドベンチスト教団に支給年数と同期間奉職する者には返済義務なし。

※他にも「勤労学生奨学金」をはじめ、各種の奨学金が充実しています。

詳細は学校ホームページ「入学を希望される方へ」をご覧ください。



<https://saniku.ac.jp/theology/admissions/#scholarship>



Saniku Gakuin History

- 1896 (明治 29) セブンスデー・アドベンチストの宣教開始。ウィリアム・C・グレンジャー宣教師来日。2年後、東京麻布に「芝和英聖書学校」開校。
- 1914 (大正 3) 「日本伝道学校」設立。(東京都豊多摩郡杉並村字天沼)
- 1919 (大正 8) 東京荻窪に「天沼学院」開校。小学、中学、高等部を併設。
- 1926 (大正 15) 千葉県袖ヶ浦市に男子部移転、「日本三育学院」と称する。天沼学院は「日本三育女学院」と改称。
- 1943 (昭和 18) キリスト教信仰のゆえに治安維持法違反の容疑で、特高警察により院長以下主要教員が検挙・連行。女学院ともに閉鎖。
- 1947 (昭和 22) 日本三育学院再開。翌年、「財団法人日本三育学院」に改組し、「日本三育学院神学校」と称する。中学校・高等学校併設、1950 (昭和 25) 年に小学校併設。東京衛生病院看護婦学校再開。
- 1951 (昭和 26) 日本三育学院神学校は「学校法人三育学院」に変更。
- 1953 (昭和 28) 「日本三育学院カレッジ」と改称。神学科、伝道科、教育学科、セクレタリー科を設置。
- 1971 (昭和 46) 「三育学院短期大学」を開設し、英語学科を設置。
- 1974 (昭和 49) 「東京衛生病院看護学院」をカレッジに移管し、「三育学院カレッジ看護学科」と名称変更。
- 1976 (昭和 51) 専修学校発足に伴い、カレッジを「専門学校三育学院カレッジ」と改称。キリスト教学科（のち神学科に改称）、教育学科（のちキリスト教教育学科に改称）、医療専門課程看護学科の三科を設置。
- 1977 (昭和 52) 中学校・高等学校は広島に移転、「広島三育学院」となる。
- 1978 (昭和 53) 専門学校・短期大学は千葉県袖ヶ浦市より千葉県夷隅郡大多喜町に移転。小学校は千葉県市原市に移転。「光風台三育小学校」となる。
- 1987 (昭和 62) カレッジをキリスト教学科とキリスト教教育学科に改編、看護学科は短期大学看護学科へ改組転換。
- 2001 (平成 13) 大河平記念校舎竣工。
- 2008 (平成 20) 三育学院大学開学、看護学部看護学科を設置。
- 2015 (平成 27) カレッジを改組。キリスト教教育学科を神学科に併合。
- 2018 (平成 30) 神学科神学専攻が、課程修了後「高度専門士」と称することができる課程と認定される。

Message

「行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。」
マタイによる福音書 10 章 7 節

アドベンチスト教会は聖書の重要な教えるである、キリストの再臨を待望する教会として、三天使の使命が全世界に宣べ伝えられることを目的として活動をしています。

三育学院カレッジでは、この使命を受け、卒業後、教会の働きを担うべく牧師・教師をはじめとする様々な活動に従事したいと志す学生が、聖書の学びを中心とした専門知識を習得し、教会のリーダーとなるための教育を受けています。

激変する社会と対峙しつつ、世の中で助けを求めている人々にキリストの救いを伝導する使命感を持った学生を求めていました。神学は、キリストの救いを日々実感し、賛美する祝福に満ちた学びです。このような素晴らしい学びは他にはありません。毎日聖書を学び、福音に接する中で、その広さと深さを追求できるのです。

そして、神様の召しに応え、福音を世界のすみずみまで伝えるべく、伝道の働きを担う学生を、私たちは心より歓迎いたします。

校長
杉 正純
SUGI Masazumi

アンドリュース大学神学部 卒業
アンドリュース大学院 神学修士終了
アンドリュース大学院 教育学博士終了



Diploma Policy ディプロマ・ポリシー

I. キリスト者としての靈性 (Devotional Lifestyle)

1. キリストとの関係に基づく靈性を、個人的生活および教会生活において育み、確立していること
2. アドベンチスト教会が推奨する全人的生活習慣の根柢を理解し、個人的に実践していること
3. 対人関係や社会集団において成熟したキリスト者の品性を表していること

II. アドベンチストとしての聖書理解 (Adventist Perspective)

1. 「信仰の大要」に表されているキリスト中心の教理理解に基づいたアドベンチストとしてのアイデンティティを確立していること
2. 聖書正典に基づいた神学の研究方法を習得し、永遠の福音であるアドベンチストメッセージの神学的基礎を理解していること
3. 真理理解の漸進的性質を踏まえ、靈感の書物から導き出される真理を能動的かつ継続的に吟味し、探究し続ける態度を有していること

III. 宣教者としての実践力 (Missionary Leadership)

1. 救靈の熱意に溢れ、キリストに遣わされる宣教者として献身していること
2. 救靈方法の基礎的理解と実践の経験を持ち、効果的なコミュニケーションスキルを身につけていること
3. 伝道活動および学内外の諸活動を通して自らの賜物を見出し、キリストを模範とするリーダーシップを発揮することが出来ること



Admission Policy アドミッション・ポリシー

本学科は、セブンスデー・アドベンチスト教団の神学教育機関として、同教団の牧師、伝道師、教師を養成するだけでなく、聖書の知識とアドベンチスト信仰を身につけ、教会の使命を担い、社会に貢献する信徒を養成することを目的としています。

この目的のために以下の資質を備える学生を求めます。

1. 聖書を学び、アドベンチスト信仰を深めることを求める人
2. アドベンチストの使命である福音宣教を志す人
3. 聖書と向き合い自らを省み、謙虚に学ぶ姿勢を持つ人
4. 神と隣人に仕える奉仕の姿勢を持つ人
5. 将来の働きに備えるために、聖書のみならず幅広い教養を身につける意欲を持つ人
6. アドベンチストのライフスタイルを受け入れ実践する心構えのある人

2026 年度入学試験情報

時期	種別	出願期間	試験日	試験会場	合格発表	手續締切日
11月	指定校推薦・ 公募制推薦	2025 11/10 (月)～ 11/17 (月)	2025 11/23 (日)	大多喜・ 広島	2025 12/1 (月)	2026 1/30 (金)
12月	A期	12/1 (月)～ 12/8 (月)	12/14 (日)	大多喜	12/19 (金)	1/30 (金)
2月	B期	2026 2/9 (月)～ 2/16 (月)	2026 2/22 (日)	大多喜	2026 2/27 (金)	3/13 (金)
3月	C期	3/2 (月)～ 3/9 (月)	3/15 (日)	大多喜	3/19 (木)	3/26 (木)

学校見学・入試等に関するお問合せ

三育学院カレッジ 入試広報課

TEL : 0470-84-0111 MAIL : nyuushi@saniku.ac.jp

〒 298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500

※随時見学を受け付けております。

MISSION を携えて

未来を切り拓こう。

「確かに未来はある　あなたの希望が断たれることはない。」 箴言 23 章 18 節

あなたとミッションをつなぎ、世界に送り出す学校



専門学校三育学院カレッジ

神学科 神学専攻 / キリスト教学専攻 / キリスト教教育専攻

〒 298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500

Tel 0470-84-0111 (代)



web



map



Instagram



facebook



X



セブンスデー・アドベンチスト教会 関連法人・機関等 <https://adventist.jp/>

学校法人三育学院

幼稚園

札幌・横浜・広島・鹿児島

小学校

札幌・函館・日立・市原・東京・横浜
広島・三原・鹿児島・沖縄

中学校

広島三育学院中学校

沖縄三育中学校

中等教育学校

三育学院中等教育学校

高等学校

広島三育学院高等学校

大学

三育学院大学看護学部

大学院看護学研究科

海外の系列校

北米・欧州・アジアを中心

116 の高等教育（大学・大学院）と

2,793 の中等教育（中学・高校）

医療

東京衛生アドベンチスト病院

神戸アドベンチスト病院

アドベンチストメディカルセンター

福祉施設

特別養護老人ホームシャローム

特別養護老人ホームシャローム東久留米

ほか、高齢者福祉施設・

障害者福祉施設など 20 ヶ所

国際援助機構

ADRA Japan

健康食品事業

三育フーズ株式会社

メディア出版事業

アドベンチスト・メディアセンター